

「これからの学術情報システム」 の在り方について

— これからの学術情報システム構築検討
委員会における議論の概要 —

2015年6月25日

東京大学附属図書館 熊渕 智行

概要

1. これまでの学術情報システム
2. これからの学術情報システム構築検討委員会
(通称「これから委員会」)
3. これからの学術情報システム検討の経緯
4. これからの学術情報システムの方向性
5. 当面の課題

これまでの「学術情報システム」①

「今後における学術情報システムの在り方について
(答申)」(学術審議会 1980年1月)

- 我が国における学術情報の流通システムの現状を分析し、
今後取り組むべき諸課題に言及
 - 一次情報の収集整備と提供システム
 - 情報検索システム
 - データベースの形成

- あるべき新しい学術情報システムの考え方と整備の方策
 - 学術情報システムの基本的な考え方と諸機能
 - システムを構成する機関群の役割と整備の在り方

- 将来の学術情報活動の欠くべからざる推進力としての専門
要員の養成確保の現状と将来の方策

これまでの「学術情報システム」②

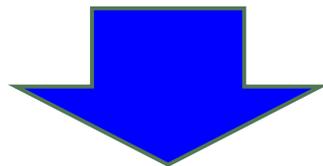
「今後における学術情報システムの在り方について
(答申)」(学術審議会 1980年1月)

- 学術情報センター([National Center for Science Information Systems](#))の設立
 - ➡ 国立情報学研究所(National Institute of Informatics)への改組
- ✓ [目録所在情報サービス\(NACISIS-CAT/ILL\)](#)
- ✓ データベース形成と情報検索サービス(NACISIS-IR)
- ✓ 学術情報ネットワーク(SINET)

これまでの「学術情報システム」③

「これからの学術情報システムの在り方」に関するその後の議論

- 「今後における学術情報システムの在り方について(答申)」(学術審議会 1980年1月)以後も、「これからの学術情報システム」に関する様々な検討の場は存在
 - ➡ 様々な「答申」「提言」「報告」「審議のまとめ」「要望」等
 - ➡ 「べき」「望ましい」「求められる」ことは明確化
 - ➡ 具体的(主体的)な実現体制・実現手段は不明確



大学図書館と国立情報学研究所の連携・協力①

➤ 2010年10月13日

国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所(NII)との間で「**連携・協力の推進に関する協定書**」を締結

「連携・協力の推進に関する協定書」概要

(目的)

学術情報の急速なデジタル化の進展の中で、我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図る。

(連携・協力の推進)

- ①バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証
- ②機関リポジトリを通じた大学の知の発信システム構築
- ③電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
- ④学術情報の確保と発信に関する人材の交流・育成と国際連携

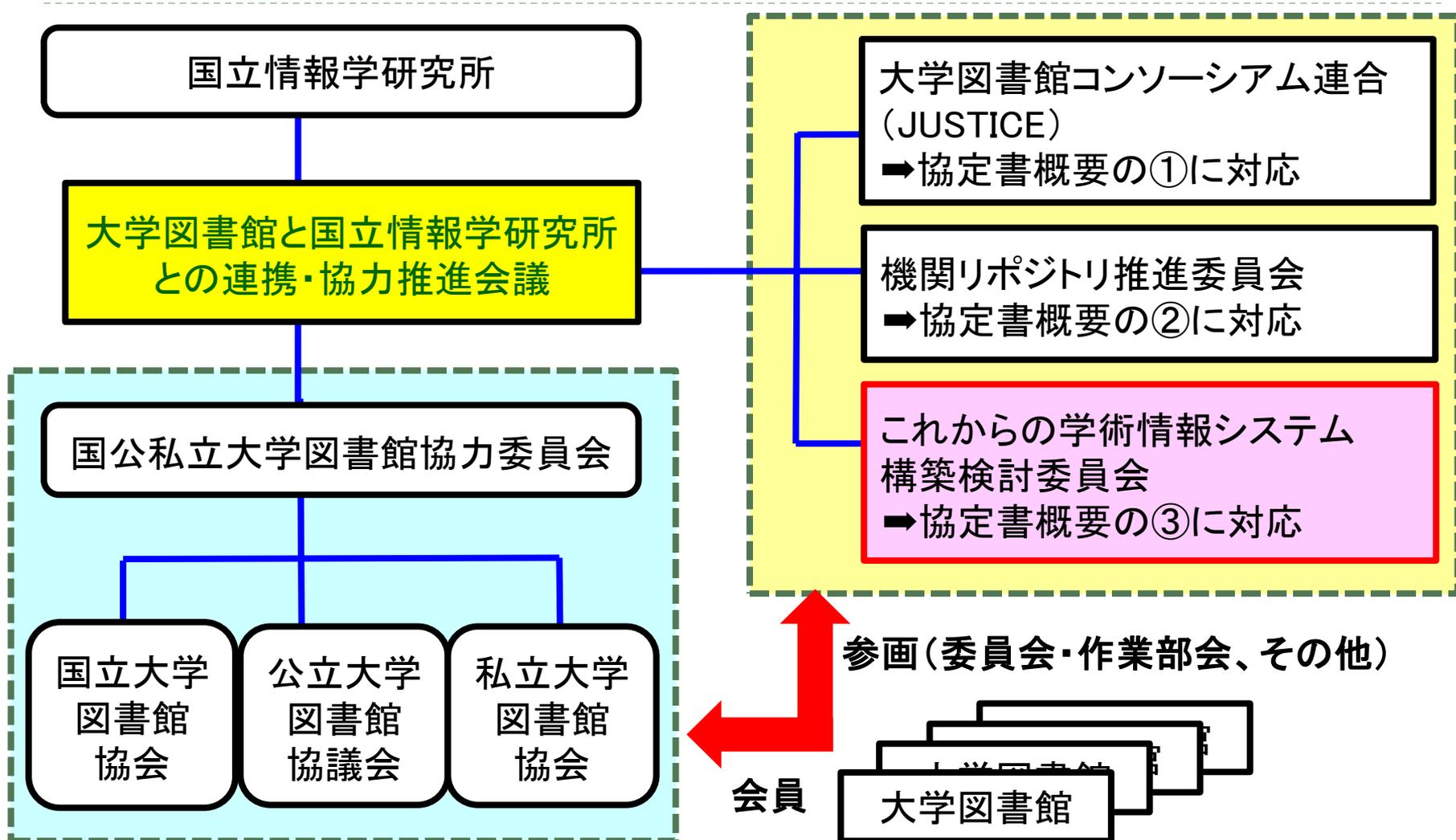
➡連携・協力を進めるため「**連携・協力推進会議**」を設置

大学図書館と国立情報学研究所の連携・協力②

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力 推進会議（通称「推進会議」）

- 大学図書館が抱える諸課題について、大学図書館が、国立情報学研究所との連携・協力のもとで、課題解決に向けて主体的に検討するための枠組み
- 具体的課題解決（活動推進）のため、「ワーキンググループ」を設置することが可能（推進会議要綱第6条）

大学図書館と国立情報学研究所の連携・協力③



大学図書館と国立情報学研究所の連携・協力④

「これから委員会」は、

電子情報資源を含む総合目録データベースの強化

を実現するために設置された、

「推進会議のワーキンググループ」

の一つ

✓ 「これから委員会」およびその下の「作業部会」は、単なる検討組織ではなく、課題解決の解決に向けた活動組織

✓ 大学図書館職員の主体的な関与が不可欠

これからの学術情報システム検討の経緯①

▶ 2014年6月 これから委員会（第7回）

✓「目録の将来検討WG」の設置を決定

▶ 2014年7月 推進会議（第8回）

✓「目録所在情報サービスの将来計画の検討は、重要な課題」

✓「検討を加速させるためにも

2020年には現在のような枠組みでの目録システムは終了している

ことを想定して議論していただきたい。」

これからの学術情報システムの在り方について

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された本委員会では、標記に係る状況を以下のように捉え、特に NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化を最重要課題として、国公立大学図書館等が国立情報学研究所と連携して解決していくための方策を検討している。

(これからの学術情報システム構築検討委員会)

取り巻く環境の変化①

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」(1980年)を受け、1985年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境には様々な変化が起きている。

取り巻く環境の変化②

特に、

- ✓ 電子ジャーナルをはじめとした電子情報資源の普及によって、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌したこと
- ✓ また研究者、学生の情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするものになっていること

への対応が急務となっている。

- ✓ NACISIS-CAT/ILLを中核とした従来のシステムの軽量化・合理化を図りつつ
- ✓ そうした変化への対応を行えるシステムの整備

を目指す必要がある。

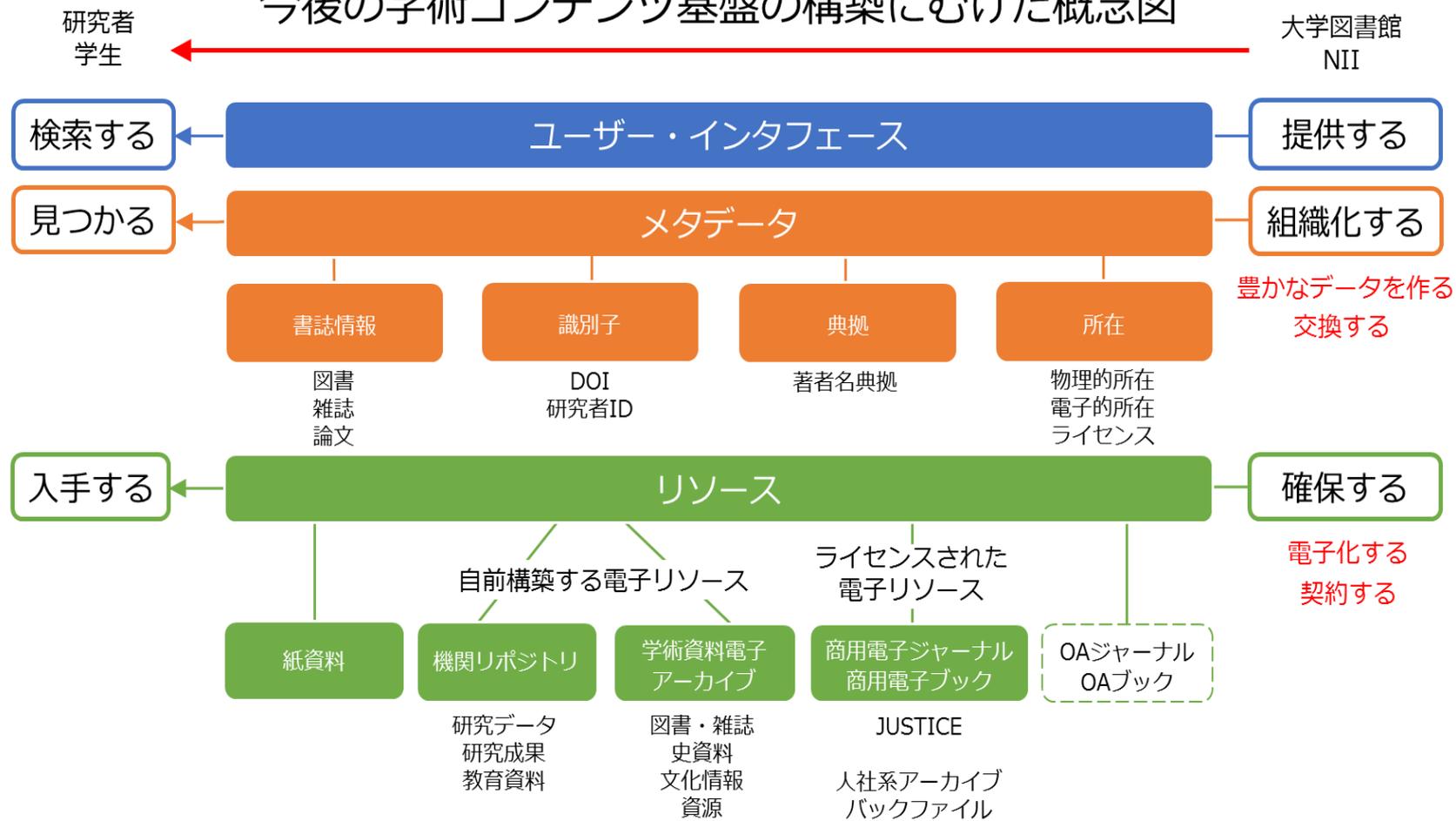
進むべき方向性①

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の3点を推進する必要がある。

- (1) 統合的発見環境の提供
- (2) メタデータの標準化
- (3) 学術情報資源の確保

進むべき方向性②

今後の学術コンテンツ基盤の構築にむけた概念図



これから委員会(第11回)資料より抜粋

進むべき方向性③

(1) 統合的発見環境の提供

電子情報資源・印刷体を区別することなく統合的に発見し、さらに、最終的に必要とする学術情報にアクセスできる環境を構築する。

① 網羅的な「発見」の仕組みの構築

② 電子情報資源・印刷体の両方について最終ターゲットまで到達できる環境の整備

進むべき方向性④

(2) メタデータの標準化

標準化されたメタデータを利用することで、以下を推進する。

- ① 学術情報の発見可能性の強化
- ② 他機関（出版者，NDL，OCLC等）との連携による、メタデータの標準化と相互利用

進むべき方向性⑤

(3) 学術情報資源の確保

従来の印刷体に加えて幅広く電子情報資源を確保するとともに、過去の資料の電子化を推進し、活用を図る。

- ① 有料の電子情報資源のライセンス契約
- ② 学内生産の研究成果の確保
- ③ 所蔵資料の電子化

当面の課題①

学術情報資源の変化に鑑み、進むべき方向性を見据えて、以下の2点を当面の課題とする。

(1) 電子情報資源のデータの管理・共有

➡電子リソースデータ共有作業部会

(2) NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)

➡NACSIS-CAT検討作業部会(設置予定)

当面の課題②

(1) 電子情報資源のデータの管理・共有

今後益々増加する電子情報資源への迅速かつ的確なナビゲートを実現し、学術情報へのアクセシビリティを向上させるための、管理・共有機能の実現

- ✓ 当面は、電子情報資源の日本版ナレッジベース(ERDB-JP)の整備
- ✓ もちろん、「電子情報資源のデータの管理・共有」は、ナレッジベース(KB)の整備だけでは実現不可
管理・共有の仕組み(ERDB)についても早期の実現(に向けた着手)は必要

当面の課題③

(2) NACISIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)

●見直しが想定される事柄

- ✓ ERDB構築に伴う対象の明確化(印刷体の図書・雑誌)
- ✓ 「共同分担目録方式」による「総合目録データベース」への「書誌」「所蔵」の登録というモデルの見直し
- ✓ 外部MARCを「参照ファイル」として利用した「流用入力」による、メタデータの(再)入力モデルの見直し
- ✓ 品質管理モデルの見直し
 - 「重複入力」を排除するための事前の入念な検索
 - レコード調整

etc.

当面の課題④

(2) NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)

◆ 短期的課題(今年度)

「2020年時点」で、NACSIS-CAT/ILLに求められる基本的な(固有の)機能要件の整理

◆ 中期(~2020年)・長期(2020~)的課題

図書館システムベンダー等との調整
関係機関(国立国会図書館・業務受託企業・海外機関等)との連携等

最後に

「これから委員会」での検討状況は以下でご確認いただけます。

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/>

The screenshot shows the homepage of the 'これから委員会' (Committee for the Future) website. At the top, there is a search bar with a '検索' (Search) button. Below the search bar is a navigation menu with five items: HOME, ニュース (News), 委員会について (About the Committee), ドキュメント (Document), and お問い合わせ (Contact Us). The main content area is divided into two columns. The left column features two sections: 'About 委員会について' (About the Committee) with a sub-link '詳細はこちら' (Details here) and an image of a laptop; and 'Contact お問い合わせ' (Contact Us) with a sub-link '詳細はこちら' (Details here) and an image of a person. The right column features a 'News' section with a sub-link '一覧はこちら' (List here) and a list of four news items with dates and titles. Below the news section is a 'Document' section with a sub-link 'ドキュメント' (Document).

これからの学術情報システム構築検討委員会

検索

HOME ニュース 委員会について ドキュメント お問い合わせ

About
委員会について [詳細はこちら](#)

本委員会は、「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」について企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動の推進を目的に設置されました。

Contact
お問い合わせ [詳細はこちら](#)

これからの学術情報システム構築検討委員会に関するご質問・ご意見はこちらまで。

News
ニュース [一覧はこちら](#)

- 2015/06/10
第7回から第11回のこれからの学術情報システム構築検討委員会資料を公開しました
- 2015/05/29
第11回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨を公開しました
- 2015/05/29
第11回これからの学術情報システム構築検討委員会を開催しました
- 2015/04/08
第10回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨を公開しました

Document
ドキュメント